



城陽おひさまプロジェクト news

第41号 2020年11月16日 NPO 法人市民共同発電をひろげる城陽の会
0774-55-4190 <http://jyoyonokai.sakura.ne.jp>

“卒FIT”をどう迎えるか 経験・交流会に19名

10月25日(日)2時から ぱれっとJOYOにて

ソーラーパネルの発電所所長さん集まれ！卒fitで交流しましょうとの呼びかけに応じて、25日に会場のぱれっとに、城陽市内はもとより宇治や京都・京田辺から19人の方々が集いました。コメントーターにはPV-ネットの古市恵三さんをお迎えして、不安や経験、悩みなどを交流しました。

開会にあたり古家野事務局長が「昨年11月から卒fitの時期に入った。今年の総会でも論議になり、会員さんからはいろいろな電話や訪問があり迷われているとも聞いている。日頃の疑問や経験など出し合い交流してほしい。」と挨拶。

杉浦副理事長が司会を行いました、その概要は次の通りです。

*発電所所長さんのお話

・東日本大震災・福島原発事故を契機に2012年9月に取付。ソーラーフロンティア。発電実績(2018実績)は5305kwh、自家消費は683kwh、自家消費率は12.9%。まもなく卒fitを迎えるので蓄電池を設置しようか電気自動車にしようか迷っている。電気購入は生協のCO2ゼロの電気にした。

・宇治に住んでいる、2013年2月に取付たので7年余。パネルはシャープ。売電価格は42円/kwh。2014年から2020年にかけて、1日の内、最大発電量を見ると25.26kwhから24.1kwhにやや経年劣化しているのがわかった。取り付けから今日までのCO2の削減量は石油に換算するとドラム缶にして約40本分に相当する。また、売電収入・自家消費と設置費用との関係では補助金もあり、7年でほぼ回収しているのではないかと思う。卒FITを考える時期に来ているので参加した。蓄電池か電気自動車を視野に入れている。

・阪神大震災を契機に取り付けたので既に卒fit、とりあえずは8円/kwhで売電しているが、今後どうしようかと考えている。パネルは京セラ。最近、27枚のパネルのうち9枚に「トラブル」が見つかった。当面は撤去して組み換えをするのか、どうか課題になっている。



左から2人目がコメントーターの古市氏

・2012年7月に取付。これまでに凡そ5000kwhを発電、4000kwh前後を売電していると思う。2022年には卒fitを迎える、ハウスメーカーが11円で買い取るとのことなので、それもいいかと思っている。電気自動車も考えはするが、いつまで車に乗るのかを考えると迷うところ。最近、再エネに逆風が吹いているように思う、容量市場と言う再エネ分野には厳しい制度がはじまった。また、東電の廃炉費用なども電気料金に上乗せされている。

・2013年7月に取り付けた、京セラ製。最近、蓄電池の売り込みでいろんな業者から電話・訪問

がある。初期費用がすごく高い、どのように考えて対応したらよいか、皆さんの声を聴いて考えたいと思って参加した。

・2013年4月に取付、シャープの製品。いろいろな情報を頂きたいと思い参加した。建築した住宅メーカーが卒fit電力を11円/kwhで買い取るようなので、それも検討している。

・2014年1月に取付、東芝の製品。福島の事故が起きるまでは深夜電力を使う契約をしていたがそれが原発由来と知り、切替と同時に太陽光パネルの設置を決めた。購入電気は新電力のル

ープにしている。蓄電池ではいろいろな電話が来ている。来年から真剣に考えようと思う。

・宇治に住んでいる、2016年9月に設置、屋根の関係で無理と言われ、一度はあきらめた。しかし、市民発電の会に相談して海外のメーカー（インリーグリーン）を使うことによって可能と分かり設置できた。卒 fit は先の事なのでまだ考えていないが、業者からの電話は沢山ある。蓄電池は大切だと考えているので情報を仕入れていきたい。

・京田辺市で仲間の家にパネルの取り付けを行い、みんなで応援している。我が家のパネルは全量売電（fit 期間 20 年間）なので、まだ少し時間に余裕がある状態。

・2012年6月に取付けた、昨年の発電実績は約5100kw、買電は約3800kwぐらい。最近、蓄電池関係の電話が多く困っている。話を聞くと値段が高く、設置しても投資額に見合わないと思っている。

・京都市から来た、原発の電気は使いたくないと思い、2012年10月に取付、三菱製。

・2002年12月に取付、京セラ製。最近パソコンが壊れた。新しいパソコンは少数以下第二位まで表示されるので、見ていて楽しい。

・原発の電気を使いたくないので取付けた。蓄電池の電話は多くかかってくる。とりあえずは勉強させてもらいたい。

・2013年11月に取付、時々パネルを見てもらう方が良いのだろうか。蓄電池はどうしようかと思うが、住宅メーカーが電力の買取もしているので検討の余地はあるかも知れない。

・原発事故後に取り付けた、2013年9月、京セラ製。蓄電池は考えていない。家を建てたメーカー電力の買い取りをしているので、その方向で考えている。

・2019年7月に取付。動機は電気工事が趣味で家の裏でBBQやコンロを、薪や炭から煙の出ない電気にしよう3000wまでのコンセントを取り付けて使用している。実績としては約4600kwh の発電に対して約5700kwh の使用になっている。これからのこととしてオール電化にするかガスを残すか考えている。卒 fit はまだ先なので、まだ考えていない。

◆古市恵三さんの話 太陽光発電ネットワーク 京都世話人

固定価格買取制度の買い取り期間満了後の対応（いわゆる 2019 年問題）について

○ 蓄電池はどんな役にたってどんな種類があるのか

太陽光発電のこれ以上の普及を阻むものは何か？と考えた時、電力の需要と供給のミスマッチ、電気は貯められないと言う原則がある。蓄電池があれば太陽光発電の電気を余すことなく利用できるのではないかと。つまり、余剰電力を蓄電池に吸収させる、災害時の備えを可能とする、夜間に充電し昼に放電することにより電力負荷をピークシフト（電力需要ピーク時間帯をずらすこと）する、また、平準化により電力負荷のピークカット（電力需要ピーク時の節電）をはかり、契約電力を抑えることができる。このような効果が期待できる。

○ 太陽光発電の発電単価と単独メリットについて

太陽光発電容量4.0kw、年間発電量1100kwh/年/kw、などの条件では単価は17.27円/kwh となる。購入電力を25円/kwh とした場合、メリットは年間34012円となる。（ここでは固定価格買取制度によるメリットを除き、計算を簡単にするため発電の経年劣化を無視）

○ 余剰電力を自家消費に変える方法

太陽光発電量の40%を占める11時から3時の時間帯の電力消費量を増やす。例えば夜間電力で使用されているエコキュートを昼間に使用する。副次的に放熱時間の減少によりロス減少、外気温が高い時の運転の方が、効率が良いなどで予想省エネ効果が11%ある。現品のタイマーを昼間に設定しなおす場合、元へ戻る場合があるので業者へ変更可能かの検討依頼が必要。

○ 固定価格買取制度が変わるかもしれない

現在のFIT制度は価格が一定で収入はいつ発電しても同じ。これをFIP制度に移行する動きがある。補助額（プレミアム）が一定で、収入は市場価格に連動する。需要ピーク時（市場価格が高い）に蓄電池の活用などで系統安定化を増やすインセンティブが出てくる。蓄電池の活用で市場価格の高い時に放電させて、これまでより直接的に系統の安定化につながる。

○ 電気自動車：V2H (Vehicle to Home)

電気自動車に充電し、その蓄電池から家庭に電力を給電するシステム。

充電には普通・倍速・急速の3種類がある。V2Hは最大出力が6kwで40kwhなら7時間、62kwhであれば10時間かかる。急速充電であれば最大出力が90kwになるので、それぞれ2



7分・42分と短縮されるが費用は倍速の約50万円の数倍、数百万円以上になるのでインフラとしての整備がされている途上、全国で7500台程度。

電気自動車は高価なので伸び悩んでいるが街乗り(20km/日)では蓄電池は余りまくる、V2Hを設置すれば家庭内消費に利用できる。この有利さが理解されれば電気自動車の普及がすすむとおもわれる。

○ 卒fit 電気売電に対する蓄電池の経済性

蓄電池容量10kwhを200万円で購入した場合、毎月の電気代は1万円(400kwh×25円/kwh)として、卒fit買取単価を8円/kwと設定した場合、投資回収年は凡そ38年となります。蓄電池寿命は15年程度ですから投資は回収されません。

○ 電気自動車とガソリン自動車の経済性比較

電気自動車とガソリン自動車の燃費(電費)比較をしてみると電気自動車は4.2円/km、ガソリン自動車は10.0円/kmとなります。電気自動車は5.8円/kmのメリットを得ることになります。年間走行距離を1万kmとすれば58000円が毎年のメリットになる。また、太陽光発電(4.0kw)で電気自動車走行後の余剰電力の価値を加えるとさらにメリットはひろがります。

○ 2019年問題(卒fit)にはどのように対応したらいいのか

卒fit後は卒fit前より収入減となる。社会貢献しながらこの収入減に対応できないか考える。必ずしも対応を急ぐ必要はない。自分で納得して決めるなど。

・これらのことを念頭に置いて少し具体的な提案です

太陽光発電の余剰分を蓄電池で最大限活用するか? 深夜電力を使っていた機器を太陽光発電で使うか? 災害・防災を重視するか?

・卒fit後の売り先の電力会社を決める考え方の一例

電力会社の決め方に指針はないので、好きな会社、応援したい会社、地産地消で日本や地方・ふるさとの活性化に役立つ方法、再生可能エネルギー普及に役立つか? など環境破壊防止や地球温暖化防止を応援するかどうかを軸に決めてはどうか。

蓄電池はいずれ必要なものとなると思います。これまで話したことが参考になればと思います。

*古市さんのレジュメを交流会欠席の太陽光パネル設置会員には同封していますので併せてお読みください。また、関心のある方はご連絡下さい、送付します。

*文中のイラストは古市さんのレジュメより引用しました。

古市さんのお話の後、質疑・交流を行いました。(主な質疑など)

q;蓄電池の値段が高い、安くならないのだろうか。

a;メーカーは安くなるとは言っていないですね。

a;ゼロ円システムで蓄電池も対象にしている。5.6KWの事例を紹介している。支払期間のパターンも9年と5年の2通り対応しているので見ておいて欲しい。

q;エコキュートの分電盤の設置の方式は素人でも見分けがつくのか。

a;業者でないと難しいと思う。等々。

蓄電池設置について、多くのみなさんが電話や訪問を受けていることがわかりました。“あわてず対応することが大切”を学んだ交流会になったと思います。

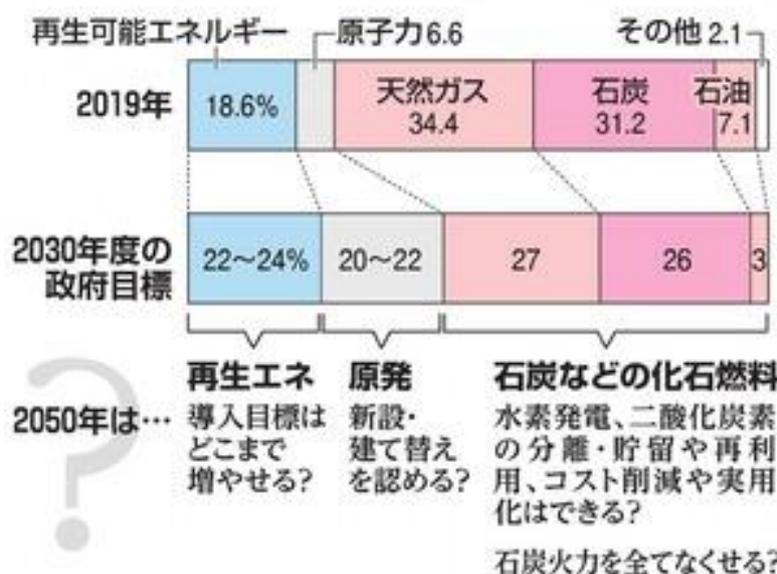
日本政府 ようやく2050年カーボンニュートラル宣言

世論に押され決定、しかし原発再稼働・新設も視野？核も化石燃料もゼロの世界へ力あわせよう

10月26日に招集された第203回臨時国会で菅首相は温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロにする宣言をしました。世界では120カ国が「50年実質ゼロ」をすでに掲げており、遅きに失していると言わざるを得ませんが、世論や世界の潮流に押されてようやく「脱炭素」に踏み切ったことは評価できます。しかし、2030年政府目標との乖離は大きいものがあります。特にカーボンニュートラルを掲げて産業革新を強調、石炭火発については大気中に炭素を出さない技術を活用「全廃と言うことではない」（梶山経産相 朝日）と述べ、欧州各国が既に全廃を掲げているのに比べ本気度が疑われる発言も出ています。さらに、原発の稼働については「最大限活用する」（梶山経産相 朝日）と発言、「まだ信頼を取り戻せていない」としつつ、再稼働・新規建設にまで視野を広げていることをうかがわせる事態です。

「2050年脱炭素」宣言で日本の電源構成はどうか？

数字は総発電量に占める割合。2019年は実績、IEAの統計から



日本原子力産業協会はさっそく26日付で「脱炭素社会の実現に貢献する原子力の価値について国民の皆様にご理解を深めていただけるよう努めてまいります。」と声明を発表しています。今の世代だけでなく将来の世代に禍根を残している原子力発電をゼロにして、再生可能エネルギーでカーボンニュートラルを実現する運動が一層求められています。

朝日 2020/10/27 付より

核兵器禁止条約、来年1月22日に発効 核兵器、終わりの初めへ

核兵器をなくしたいとの世界の思いが実を結びました。ホンジュラスが10月24日に国連に批准書を提出したことで、発効に必要な要件50の国・地域をクリア、来年1月22日に核兵器は違法だとする条約が成立しました。しかし、唯一の戦争被爆国・日本政府はこの条約に背を向けています。

原水爆の核も、原子力発電の核もともに無くしていく運動を強めていきましょう。

白熱電球とLED電球の無料交換会、来年2月に開催企画中

使用中や点かなくなった白熱電球とLED電球の無料交換会の企画が進行中です。日時は2月14日、場所は文化パークを予定しています。「2050年カーボンニュートラル」を日本政府がやっと宣言しました。家庭でも省エネ推進の契機にしてみよう、との思いでの企画です。詳しくはニュースやチラシ、ホームページでお知らせします。



本会のQRコードです。スマホなどをかざすと本会ホームページを閲覧することが簡単にできます。お試しください。

NPO 法人市民共同発電をひろげる城陽の会

連絡先 0774-55-4190 e-mail bnkmf858@kcn.jp